

ナサニエル・ホーソン研究  
Working Checklist: 2010-2011

川村 幸夫 (東京理科大学)  
大野 美砂 (東京海洋大学)  
奈良裕美子 (諏訪東京理科大学)

I. Books

- 入子文子 (編著) 『英米文学と戦争の断層』 関西大学出版部(2011)  
日本ソロー学会(編) 『ヘンリー・ソロー研究論集』 第36号 日本ソロー学会(2010)  
野田研一 (編著) 『〈風景〉のアメリカ文化学』 ミネルヴァ書房(2011)  
福岡和子・高野泰志 (編著) 『悪夢への変貌—作家たちの見たアメリカ—』 松籟社(2010)  
矢作三蔵 (編注) 『美の芸術家／The Artist of the Beautiful』 開文社(2010)

II. Bibliographies

III. Translations

- 坂下昇 (訳) ナサニエル・ソーソン著「牧師の黒のベール」 『黒』 ポプラ社(2010)  
八木敏雄 (訳) ナサニエル・ホーソン著『緋文字』 岩波書店(2010)

IV. Articles

- 稲富百合子「ホーソンの“Legends of the Providence-House”に見られる政治性」 『福岡大学研究部論集 A 人文学科編』 10(5)福岡大学研究推進部(2010) pp. 15-23.  
入子文子「ホーソンと追憶のなかのウルフ—『英国ノート』を通して—」 『英米文学と戦争の断層』 pp. 73-111.  
上田麻由子「血塗られた手—ポール・オースター『幻影の書』におけるナサニエル・ホーソンの遺産」 『上智英語文学研究』 35 上智大学英文学会(2010) pp. 15-26.  
尾崎裕子「ナサニエル・ホーソンの「ロジャー・マルヴィンの埋葬」 試論」 『立命館英米文学』 20 立命館大学英米文学会(2011) pp.12-34.  
久保清香「Nathaniel Hawthorne における絵画の役割—“The Prophetic Pictures”を中心に—」 『鶴見英語英米文学研究』 11 鶴見大学(2010) pp. 95-110.

- 小久保潤子「フェティッシュ化される身体—「ゴルゴンの首」と「痣」における博物学的まなざし—」『フォーラム』16 日本ナサニエ  
ル・ホーソーン協会(2011) pp. 1-18.
- 鈴木 繁「明かされたホーソーンと隠された横光利一—中井英夫「大望ある乗客」の選択」『九州アメリカ文学』51 九州アメリカ文学  
(2010) pp. 61-70.
- 高島まり子「イルブラヒムはどこから来て、どこへ行ったのか?—ホーソーン作「優しい少年」の意味」  
『鹿児島女子短期大学紀要』45  
鹿児島女子短期大学(2010) pp. 109-29.
- 近澤邦子「Evangeline—Nathaniel Hawthorne を視野において(1)」『千里山文学論集』84 関西大学大学院文学研究科(2010) pp. 179-203.
- 中西佳世子「『大理石の牧神』の「幸運な墮落」をめぐる二重のプロット—十九世紀アメリカのデモクラシーとプロヴィデンス」『悪夢へ  
の変貌』 pp. 43-67.
- 丹羽隆昭「「家庭」なき「家」の「日常」—『七破風の家』随想」『悪夢への変貌』 pp. 17-42.
- 野田 明「「ホーソーンとその苔」—『白鯨』の語り再考のために」『Philologia』41 三重大学英語研究会(2010) pp. 111-20.
- 藤村 希「ピクチャレスク・ツアーとアメリカ的テーマ/主体の形成—1830年代のホワイト山脈」『<風景>のアメリカ文化学』 pp. 105-27.
- 藤吉清次郎「ムカジーとホーソーン—“hybridity”の問題をめぐる」『高知大学学術研究報告』59 高知大学(2010) pp. 121-29.
- 真木彰子「“Young Goodman Brown”試論—なぜ Brown は Goodman なのか」『鶴見英語英米文学研究』11 鶴見大学・鶴見大学大学院(2010)  
pp. 79-94.
- 森山盛吉「Hawthorne の虚構の周辺に生きるピューリタンの実像—Hawthorne の作品におけるピューリタンの可能性を発端として」  
『東北学院大学論集・英語英文学』94 東北学院大学学術研究会(2010) pp. 1-23.
- Aoyama, Yoshitaka. “Space and Time: A Study of Nathaniel Hawthorne”『甲南大学紀要・文学編』160 甲南大学(2010) pp. 75-87.
- Masunaga, Toshikazu. “Nathaniel Hawthorne in the Age of Science and ‘The Birth-Mark’” *Kwansei Gakuin University Humanities Review* 15 関西学院大学(2011) pp. 79-92.
- Sasaki, Eitetsu. “Mock-Christ, Mater Tenebrarum, and Hawthorne: Disastrous Deification in Melville’s Domestic Metafiction, *Pierre*; or, the Ambiguities.”『英米評論』24 桃山学院大学英語英米文学会・桃山学院大学総合研究所(2010) pp. 55-91.

-----, "The Demise of Romance under Patriarchy: Hawthorne's *The Marble Faun*." 『英米評論』 25 桃山  
学院大学英語英米文学会・桃山  
学院大学総合研究所(2011)pp. 1-17.

## V. Reviews

鴨川卓博『悪夢への変貌—作家たちの見たアメリカ』（福岡和子・高野泰志編著）『フォーラム』 16 日  
本ナサニエル・ホーソーン協会(2011) pp. 19-24.

竹内理矢『悪夢への変貌—作家たちの見たアメリカ』（福岡和子・高野泰志編著）『アメリカ学会会報』  
174 アメリカ学会(2010) p. 6.

中井紀明『欲望・暴力のレジーム—揺らぐ表象／格闘する理論』（竹村和子編著）『フォーラム』 16 日  
本ナサニエル・ホーソーン協会(2011) pp. 25-31.

中村栄造 *A Historical Guide to Nathaniel Hawthorne* (Larry J. Reynolds, ed.) 『フォーラム』 16 日本ナサ  
ニエル・ホーソーン協会(2011) pp. 45-51.

難波雅紀『独立の時代—アメリカ古典文学は語る』（入子文子・林以知郎編著）『アメリカ文学研究』 47 日  
本アメリカ文学会(2010) pp. 54-59.

乗口眞一郎 *Hawthorne's Visual Artists and the Pursuit of a Transatlantic Aesthetics* (Kumiko Mukai) 『フ  
ォーラム』 16 日本ナサニエル・ホーソーン  
協会(2011) pp. 33-37.

藤村 希 *Devils and Rebels: The Making of Hawthorne's Damned Politics* (Larry J. Reynolds) 『フォーラ  
ム』 16 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2011)  
pp. 39-44.

Takao, Naochika. *Devils and Rebels: The Making of Hawthorne's Damned Politics* (Larry J.  
Reynolds) *Studies in English Literature*. English Number 52  
日本英文学会(2011) pp. 150-55.

## VI. Essays & Miscellanies

入子文子「関西支部研究会」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 16.

川村幸夫「東京支部研究会」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 15.

-----「資料室だより」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 19.

倉橋洋子「中部支部研究会」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 16.

佐々木英哲「編集室だより」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 18.

高尾直知「国際渉外室だより」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 20.

高島まり子「九州支部研究会」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 17.

丹羽隆昭「会長挨拶」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 1.

増永俊一「事務局だより」『NHSJ Newsletter』 29 (2011) pp. 20-21.

Arai, Keiko. "Women, Nation, and American Democracy in *The House of the Seven Gables*." 『NHSJ  
Newsletter』 29 (2011) p. 4.

Kido, Mitsuyo. "The Emergence of Another Family Romance: Reading *The House of the Seven Gables* as a Story of Housekeeping." 『NHSJ Newsletter』

29 (2011) p. 3.

Kokubo, Junko. "Gorgon, the Birth-mark, and Fetishism: Eroticism in Hawthorne's Texts." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 8.

Murakata, Akiko. "Ernest F. and Mary M. Fenollosa and the World Literature." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) pp. 9-12.

Nakamura, Eizo. "'Young Goodman Brown' and 'the erotic.'" 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 7.

Oba, Atsushi. "Hawthorne, Sadism, Masochism." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) pp. 7-8.

Ohno, Misa. "*Uncle Tom's Cabin*, the United States, Haiti, and Liberia." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) pp. 2-3.

Sanada, Mitsuru. "Conflict and Concord in *Redburn* and "Hawthorne and His Mosses." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 2.

Senoo, Tomomi. "Aesthetics of Grotto: Paradoxical Efficacy of Solitude in Hawthorne's *The House of the Seven Gables*." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) pp. 4-5.

Suwa, Tetsushi. "Literature and Eroticism." 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) p. 6.

Takemura, Kazuko. "Intermission?" 『NHSJ Newsletter』 29 (2011) pp. 13-14.

追記：記載漏れの論文などがあるかと存じます。お気づきの点などございましたら、資料室担当者までお知らせください。また、論文などご執筆の際には、資料室に一部お送りいただくか、タイトルなどをお知らせいただけましたら幸いです。（川村）